



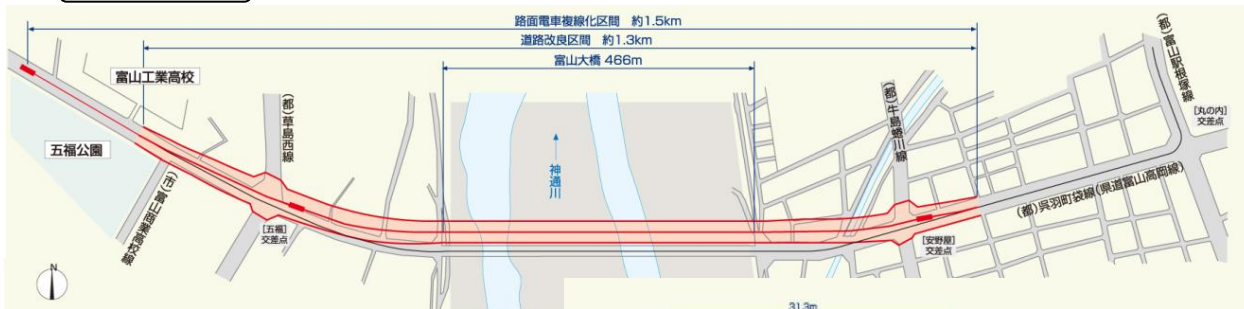
# 富山大橋架替事業が遺したものの

○富山大橋架替事業とは、そしてその成果とは

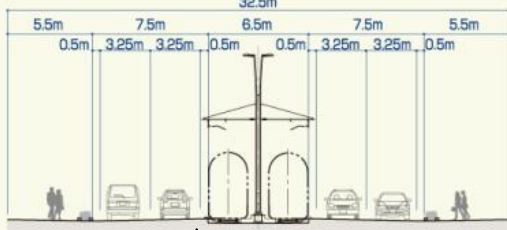
昭和11年に架けられた富山大橋は、2車線道路にもかかわらず1日あたりの自動車交通量が約2万6千台にもものぼり、朝夕はもとより日常的に交通渋滞が発生していました。また、橋自体の老朽化が進行し、近年の車両の大型化に対する通行の安全性を確保することが難しい状況でした。このため、富山県では平成10年度から富山大橋を含む約1.3km区間を4車線に拡幅する事業を進め、平成26年度に完成しました。

本事業は、富山市中心部において十数年の時間をかけ、多くの方々の協力を得て進めてきたわけですが、この事業によって、どのような量的・質的な成果が得られたのか、事業完了に当たり、あらためてふり返ってみたいと思います。

計画平面図

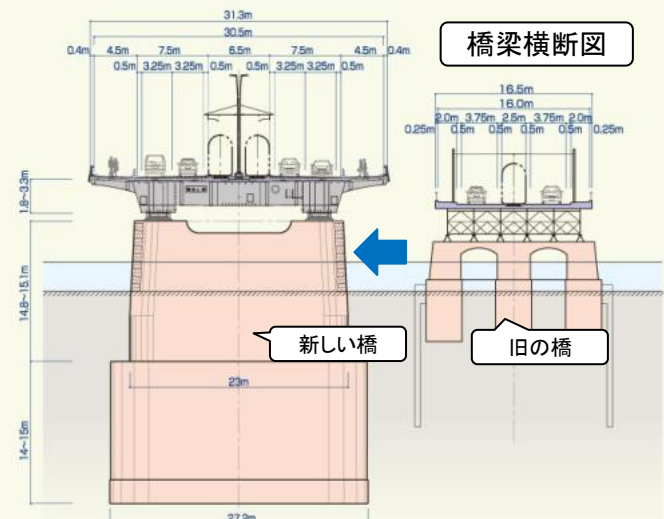


標準横断面図



橋の前後の道路部

橋梁横断面図



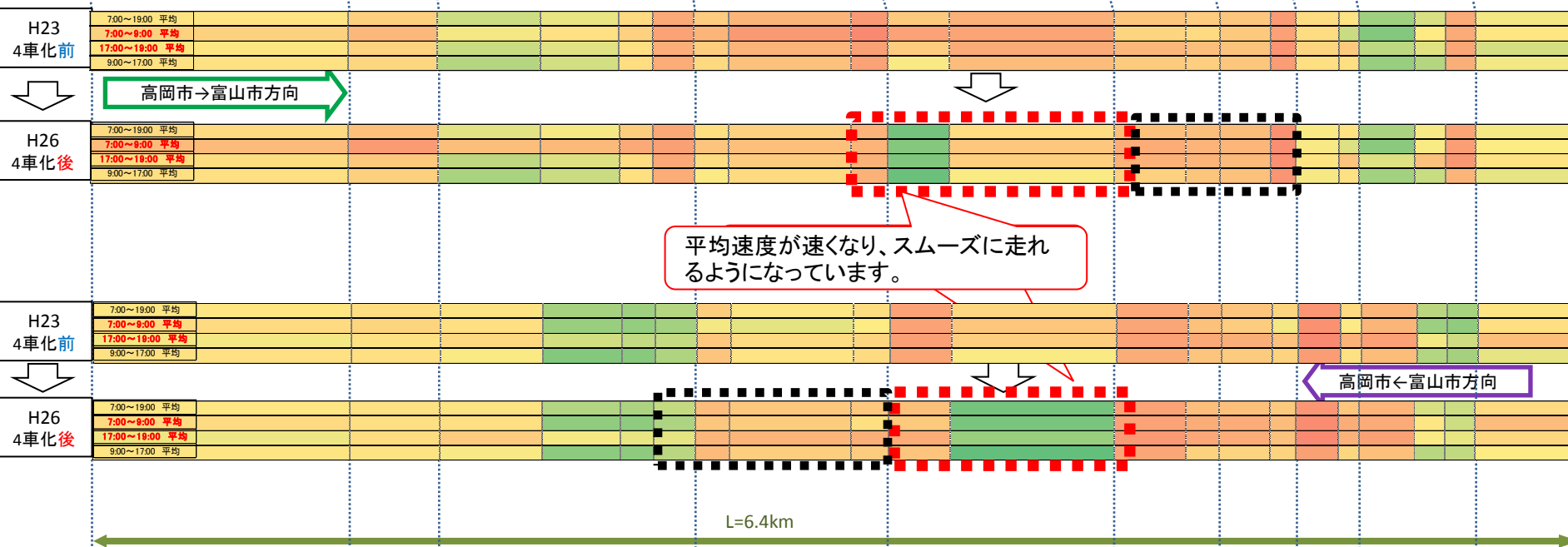
# ○車道4車線化により、事業区間内を走行する自動車の平均速度が改善されました。

- 本事業の完成により、赤実線区間が4車線化された。青実線区間は既に4車線化済み。
- 事業区間(赤実線)は4車線化の効果により、速度が向上(赤点線枠)。
- 一方、事業区間の前後の2車線区間(黒実線)では、逆に速度が低下(黒点線枠)。特に、安野屋～丸の内間は、朝夕ピーク時には依然10km/h前後で渋滞が発生。



【時間帯別】 平成23年度(富山大橋4車線化前)と平成26年度(4車線化後)の比較

富山大橋



※数字は平均旅行速度(km/h)  
 ※城址公園前以西は(主)富山高岡線、城址公園前以东は国道41号

※HONDAのインターナビ装着車から得られる、時刻・位置などの走行データを利用して、平均速度を求めています。  
 ※出典: 本田技研工業(株)インターナビ統計データ(H23.4~H24.3、H26.4~H27.3)

○車道4車線化により、朝夕のピーク時間帯で、大きく所要時間が短縮されました。

五福末広町交差点～諏訪川原交差点の所要時間の変化

高岡市→富山市方向

所要時間  
(秒)



朝ピーク時 168秒短縮(37%減少)  
夕ピーク時 108秒短縮(29%減少)

■朝(7:00~9:00)  
■夕(17:00~19:00)

4車化前

4車化後

高岡市←富山市方向

所要時間  
(秒)



朝ピーク時 115秒短縮(34%減少)  
夕ピーク時 61秒短縮(17%減少)

■朝(7:00~9:00)  
■夕(17:00~19:00)

4車化前

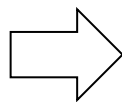
4車化後

※「本田技研工業(株)インターナビ統計データ」より算出

○歩道幅員を拡幅し、歩行者・自転車の安全な通行空間を確保しました。  
また、路面電車の複線化により、乗降者が増加しています。



旧富山大橋:2mの狭い歩道。路面電車は単線。



新富山大橋:歩道を4.5mに拡幅

複線化により定時運行確保が容易になり、複線化区間の停留所では乗降者数が**約5.3%増加**(複線化前H23と複線化後H25の比較)



複線化区間の状況

○デザインに配慮した富山大橋は、良好な道路空間を創出しました。  
土木学会デザイン賞2014「奨励賞」を受賞するなど、高い評価を受けています。



旧富山大橋:立山連峰の眺望を阻害する架線と照明



新富山大橋:センターポール形式の採用ですっきりした橋面



立山連峰に調和する「**あおにび青鈍色**」の桁



美しい2点支承の主桁と橋脚の納まり

デザイン賞選考委員  
講評(抜粋)

立山連峰の眺望を確保できる上路形式としたことは大いに評価できる。  
この橋で最も美しいと感じたのは、桁下からの見上げである。リズムカルな曲線状のブラケット、2点支承の主桁と橋脚の納まりは、程よい緊張感があり、確かに美しい。桁の色彩も周囲に馴染んでいる。

○新橋の開通を記念し、旧橋の記録・記憶を残すため、多彩な記念イベントを地元の皆様の参加により実施しました。これらの記念イベントは、富山大橋、ひいては土木施設を大切に作る気持ちの醸成に寄与しました。



新橋 開通式  
(平成24年3月24日)



渡り納め  
(平成24年8月26日)



旧橋からの花火大会観覧  
(平成24年8月1日)



兩岸の橋梁端部を原位置に復元保存  
(平成27年7月11日)

特に、地元小学生の成長にあわせた勉強会を6年間継続開催したことは全国的にも前例がなく、特筆される取り組みでした。これをきっかけに、後輩小学生が、ガラス玉清掃を恒例行事として現在も毎年実施するなど、富山大橋を大切にしたい気持ちが引き継がれています。



6年間にわたり継続的に行った  
地元小学生への勉強会(平成18年度～23年度)



地元小学生がガラス玉を製作し、富山大橋の高欄に設置  
(平成23年7月～8月)



地元小学生による高欄清掃(平成24年度～継続中)



地元小学生による歴史を  
未来に引き継ぐ宣言(平成27年7月11日)